

令和5年度 4月の補導活動

佐久市少年センター

1	街頭補導実施回数	15回
2	延べ従事補導委員数	28人
3	相談件数	0件
4	補導した少年数	4人
5	声かけ人数	203人



4月の補導日誌から

4月4日（火）

専門補導委員 記

巡回経路 生涯学習センター → 野沢児童館 → 中嶋公園 → 原公園 → 城山公園
補導の様子

暖かい陽光が差し込み、また、桜が満開となった中で、新年度第1回目の街頭補導活動を実施した。野沢児童館を訪問したところ、本日の児童館利用児童は約40名とのこと。庭にいた大勢の児童から大声で「こんにちは」と元気のいいあいさつがあった。原公園では、保護者に見守られながら5～6名の男児がゴムボールで野球をやっていた。未就学児童から3年生までの子どもとのこと。打球が、たまたま専門補導委員に当たると、打った児童は、心配そうな顔をして「すみません。大丈夫ですか？」と謝ってくれた。小学校低学年生であったが、すぐに謝るなど素晴らしい対応で「大丈夫だよ。野球頑張って」と声をかけると「すみませんでした。頑張ります」と明るい返事があった。中嶋公園では、10名くらいの子どもがおり、1名の小学4年生を除く全員が新中学生とのこと。中学校での抱負を聞くと、「勉強を頑張りたい」「部活に入って頑張る」など中学校への希望に満ちた返事が返ってきた。清々しい気持ちにさせてくれた希望に満ちた彼らの未来に幸あれと願い、その場を離れた。

4月5日（水）

専門補導委員 記

巡回経路 横町公園 → 平賀新町公園 → 水上公園 → あいとびあ白田
→ 橋場公園 → 成田公園 → 成知公園 → 浅科支所

補導の様子

桜が満開で天候もよく、外に出るには申し分のない日であった。補導活動の集合場所を確認しながら中込～白田～浅科へと巡回した。公園には多くの子どもたちが出ていると思ったが、閑散として利用者の姿が見えない公園もあった。その中で成知公園では37名程の小学生や子守をしている母親たちが利用していた。その中でも、ちびっこ元気クラブのこどもたちが、野球を楽しんだりブランコなどの遊具で遊んだりしていた。一緒に利用していた母親から、屋根に上ったり、物を投げたりしている子がいると報告を受け、該当する子どもたちに危険であり物を壊すような迷惑な行為をしないようにと話をしたら、「はい」と返事を返してくれた。また、中込小学校の新5年生3人組は、明日からの学校について「学校が始まるのは嫌だ」と言いながらも、「頑張ってるね」と話をすると「はい」と返事を返してくれた。

4月7日（金）

専門補導委員 記

巡回経路 駒場公園 → 東中学校 → 新子田八幡神社 → 東児童館

補導の様子

春爛漫の季節となった。降雨の天気予報を気にしながら街頭補導活動に出かけた。今年は桜の開花が早い。今日は、時折吹いてくる風に散り急ぐ桜を見ながら巡視を進めた。駒場公園の駐車場は、車の数も少なく閑散としていたが、運動場では数名の高校生がトレーニングをしていた。多くの学校では新学期が始まって、登下校には細心の注意を呼び掛けていることだろうが、下校する子どもの姿は見られなかった。新子田八幡神社や公園にも人影はない。東児童館に立ち寄ると、元気よく遊ぶ子どもたちの姿が目飛び込んできた。十数名の利用者のうち、1年生が10名で最も多いという。参加者の氏名欄には、たどたどしい平仮名で名前が書いてある。手伝ってもらって、一生懸命書いたに違いない名前を見ながら、子どもたちの健やかな成長を願った。館を去り際、1年生の女の子に「さようなら」と声をかけた。女の子は、きょとんとした顔でこちらを見た。頭をなでてやると、笑みがこぼれた。次回はきっと、「さようなら」と返してくれるよね。

4月11日（火） 啓発活動

専門補導委員 記

巡回経路 市民交流ひろば → ミレニアムパーク → 佐久平駅ロータリー周辺

補導の様子

毎月11日は、「信州あいさつの日」です。「家庭や地域でお互いにあいさつをすることで、みんながつながり、地域を元気にして地域ぐるみで子どもの育ちを応援しよう」と平成26年4月からスタートした運動です。11日とした理由は、「『11』が人と人が向かい合ってあいさつしている姿に似ている」「いい『11』あいさつ」からとのことでした。信州あいさつ運動の広報啓発のため、少年センター事務局職員と専門補導委員が「信州あいさつ運動」と書かれたタスキをかけ、公園で遊ぶ親子などに信州あいさつ運動の趣旨を説明しながらポケットティッシュを配布しました。「こんにちは」のあいさつに、気持ちよく「こんにちは」とのあいさつが返ってきました。未就学児童も元気よく「こんにちは」とあいさつしてくれましたし、上手に話ができない幼い子は、バイバイと手を振ってくれ、とてもすがすがしい気持ちになりました。この運動が広まり、地域が元気になり、地域の宝物である子どもの育ちの応援になればと思いました。

4月12日（火）

専門補導委員 記

巡回経路 今井 新海宮 → 千曲川スポーツ広場 → 下県 縣神社
→ 岸野児童館 → 榛名平公園 → さくらいこどもひろば

補導の様子

千曲川スポーツ広場には、大勢の高齢者がマレットゴルフを楽しんでいたが、子どもの姿はなかった。岸野児童館を訪問したところ、大勢が利用しているようで、楽しそうな声が響き渡っていた。館長は、「1年生の利用は他の学年よりも多いが、今年は、例年よりも多くの新1年生が来館している。今日は低学年生を中心に30数名が来ている」とおっしゃっていた。今井地区の新海宮、下県地区の縣神社、榛名平公園を訪問したが、誰もおらず閑散としていた。



4月18日(火)

専門補導委員 記

巡回経路 布施温泉公園 → 善郷寺団地内公園 → 望月児童館 → 若駒児童公園
補導の様子

事務連絡文書を配布しながら、望月地区内の街頭補導を実施しました。順路沿いの布施温泉公園、善郷寺団地内の公園、若駒児童公園に立ち寄りしましたが、いずれも人影はありませんでした。望月児童館を訪問したところ、約40名の児童が来館していました。その約半数は、1・2年生でした。館内で宿題をやったり、読書をしたり、体育館で遊んだりして思い思いに過ごしていました。帰庁途中、何名かの児童が家路に向かっていました。横断歩道近くで手を高く挙げている児童がいたので、横断歩道手前で車を停止させました。児童は、おじぎをして横断歩道を渡り、横断後には私の方に振り向き、深々とお辞儀をしてくれました。「気をつけて帰ってね」の言葉に「ありがとうございます」と明るい返事がありました。マナーの良さと明るい声にさわやかな気分させていただきました。

4月19日(水)

専門補導委員 記

巡回経路 市民交流ひろば → 佐久平浅間児童館 → 小田井児童館 → 平根児童館
補導の様子

晴天に恵まれ、気温も上昇し夏日の天候であった。市民交流ひろばでは、未就学の子どもを連れて公園を利用している親子連れや乳母車を押しながら前に子どもを抱っこしている母親など、十数組程度の親子の姿であった。佐久平浅間児童館では100名前後の児童が利用をしているとのことで、訪問している時間帯にも迎えの車が駐車場を出入りしていた。道すがら、周りの畑では野菜の植え付けをしている作業風景を見ながら、小田井児童館に何うと30名程の子どもが利用していた。新1年生の利用は少ないと館長さんはお話してくれた。最後に平根児童館に立ち寄り、館長さんのお話を聞くことができた。落ち着いた雰囲気の中で30名程の子どもが利用していると伺った。職員にあいさつをして玄関を出ようとしている背後から、外遊びが終わって館内に入る子どもさんに、「バイバイ」とあいさつされて驚きながら「上手にあいさつできるね」と言葉を返した。

4月20日(木)

専門補導委員 記

巡回経路 岩村田小学校前 → 中央公園 → ネットカフェ
→ ゲームセンター → うな沢公園 → 久保田公園
→ やまぼうし公園 → ねむのき公園 → 砂田公園

補導の様子

この暑さはいったい……。一気に真夏の暑さだ。岩村田小学校の校門では、黄色いヘルメットをかぶった子どもたちが家路を急いでいた。近くには、笑顔で子どもを見送る先生の姿が見られた。重そうなランドセルを背負った新入生と思われる児童も、そろそろ学校生活にも慣れたころだろうか、元気に歩を進めている。街角で下校する子どもたちを見守るボランティアの方々に感謝しながら、ネットカフェに向かった。スタッフの皆さんにあいさつし、店内を見せてもらった。喫煙エリアが明記されており、青少年健全育成への配慮が感じられた。ゲームセンターでは、16歳未満の遊技可能な時間が大きく掲示されていた。公園の人影はおおむねまばらであったが、ねむのき公園には、9名ほどの小学生が遊んでいた。6年生だという2人の女子児童は、こちらの問いかけに、



ゲームの手を止めて応えてくれた。新学期や友達のことなど、短時間ではあったが、楽しい会話に心和む時間を過ごすことができた。帰り際、葉桜を眺めながら、明日こそ、今使っている公用車のタイヤ交換をしようと誓いを立てた。

4月21日（金）

専門補導委員 記

巡回経路 若宮公園 → 一本柳公園 → 砂田公園 → 佐久平南広場（佐久平サンスクエア）

補導の様子

桜の季節は終わりを告げたが、色とりどりの花桃や野辺に咲いたんぽぽが、春の盛りは今だと教えてくれる。若宮公園に近づくと、ヘルメットをかぶり、自転車で公園に向かう児童を見かけた。案の定、公園の広場では、8人ほどの小学生が野球を始めていた。このところ、多くの公園で野球をする子どもたちを見かけるようになった。野球人気の復活は本物かもしれない。遊具で遊ぶ子どもたちもいて、春の公園はにぎやかである。一本柳公園にもボール遊びをする小学生や、数組の親子連れの姿が見られた。佐久平駅の南に整備された佐久平南広場は、佐久平サンスクエアとして市民の憩いの場になりそうだ。管理人さんは、「キッチンカーでの販売や、さまざまなイベントを計画している。また、広場全域をカバーできる監視カメラによって、防犯面にも十分配慮している」と話してくれた。青少年健全育成への協力をお願いしてその場を後にした。

4月24日（月）

専門補導委員 記

巡回経路 中嶋公園 → 城山公園 → 原公園 → 野沢児童館

補導の様子

先週の暑さがうそのような寒さである。県下では凍霜害対策が呼びかけられているが、農家の皆様の心労は計り知れない。中嶋公園に人影は見られなかったが、城山公園に近づくと、元気のよい子どもたちの声が聞こえてきた。2年生の児童が4人、サッカーを始めるところだった。小さなサッカーゴールを設置し、楽しそうにボールを追いかけている。傍らで見ている幼い女の子は、寒さに震えていたが、「母親が上着を取りに行っている」と、しっかりした口調で話してくれた。自転車でやって来た5年生の男の子は、友達と待ち合わせてサッカーをやるといふ。ほどなくして、数名の男子小学生が集まった。「場所取りで、けんかにならないように」と話すと、大きくうなずいてくれた。原公園のバラ園は、ていねいに管理され、来園者を待っていた。野沢児童館の庭では、多くの子どもたちが館長さんを囲んで楽しげに過ごしていた。当日は90名ほどの利用者があるというが、限られたスタッフで大勢の子どもたちに対応することの難しさをひしひしと感じた。



4月26日（水）

専門補導委員 記

巡回経路 青沼児童館 → 臼田駅 → 下越児童館 → 田口児童館

補導の様子

朝から雨が降り続き、街頭補導をする臼田方面は一時強い雨足で、車のフロントガラスに当たる音が気になった。児童・生徒が下校する時間帯でもあったが、傘をさして下校する子どもたちの姿は見られなかった。新臼田小学校の青沼・田口方面はバスでの登校、下校なので、雨の心配はなかった。青沼児童館の利用状況は昨年度より増え、館内では元気な子どもの声が聞こえた。隣接した青沼保育

園では、小さな青い長靴を片手に持ち、傘をさした初老の方とすれちがい会釈を交わした。雨が心配で、お孫さんのお迎えに来たのだろうと思った。下越児童館では、学校から徒歩の児童館利用であったが、昨年度より利用者は増えているとのことで2階からは大きな声が響き渡った。田口児童館では、バス下車から児童館まで徒歩の利用で、利用状況は減少したとのことであった。子どもたちの道行く姿は降雨のため見られなかったが、帰りの車窓からは、雨雲から日が差し込む曇り空に変わり、明日の晴れを予感させた。

4月27日(木)

専門補導委員 記

巡回経路 中佐都児童館 → 砂田公園 → 佐久平サンスクエア
→ ねむのき公園 → 近津南公園

補導の様子

昨日の雨も上がり、雲一つない青空が広がっている。子どもたちの下校時刻だろうか、小・中学生が帰路を急いでいる。横断歩道を渡った白いヘルメットの小学生が、止まった車もないのに道路に向き直っておじぎをした。補導員の私たちは感心して顔を見合わせた。中佐都児童館には、入館する多くの子どもたちの姿が見られる。混乱を避け、児童館への訪問は控えることにしたが、小学校のすぐ隣に児童館が設置されていることの利点を強く感じた。砂田公園には親子連れの姿が見られた。佐久平南の商業施設への来店客増加にともない、砂田公園や佐久平サンスクエアの巡視活動を充実させる必要がある。ねむのき公園では、小学生6人と中学生4人がゲームをしたり、会話をしたりして時間を過ごしていた。近津南公園では、小さな子どもと傍らの母親に車窓から軽く会釈をしてその場をはなれた。浅間の頂の残雪は、もうわずかとなった。



4月28日(金)

専門補導委員 記

巡回経路 舟久保団地公園 → 下原 こどもひろば
→ 八幡神社公園 → コンビニ(カラオケ店)
→ 道の駅 → 庄ノ上公園 → 十二川原公園

補導の様子

暖かい春の日差しが降り注ぐの中、浅科方面の公園等を巡回しながら、街頭補導活動を実施した。舟久保団地、子どもひろば、八幡神社、庄ノ上の4公園は、利用者がなく閑散としていた。コンビニと同じ敷地内にあるカラオケ店を訪問した後、屋外に出ると3人の男子中学生がコンビニに向かうところであった。中学2年生とのこと。学校生活について聞くと、部活でバスケットボールをやっていることなど明るい笑顔で話してくれた。道の駅には、ハンモックが設置されており、駅長にお聞きすると「地元の子供がハンモックを利用しますし、清涼飲料水を購入してくれますが、問題行動はありません」とのことだった。浅科浄化センター近くの新幹線橋脚と付近の道路に赤色ペンキの落書きがあった。(JR、市土木課に概要を報告し、対処をお願いする予定)。十二川原公園にも数名の男女中学生がいた。全員が中学1年生で、帰宅後公園に来たとのことだった。勉学や部活など、中学校生活への抱負を話してくれた。充実した中学生生活を送れるよう励まし、貴重な中学校生活が送れるよう祈り願いつつ、その場を去った。

4月の補導活動を終えて

専門補導委員 H・S

2年の任期を終えた補導委員の皆様とお別れした。別れ際、感謝の言葉を交わして、お互いの健康を祈った。寂しさとともに3月は去った。年度が改まり、新しいランドセルを背負った小学生や、少し大きめの制服に身を包んだ中学生の姿を見かけるようになった。街頭補導活動で声かけに答えてくれた小学生は、「2年生」・・・「あ、3年生」。タンポポのような微笑みを返してくれた。

春になると聞きたくなる歌がある。「微笑み返し」。キャンディーズの名曲だ。カラオケではすでに懐メロの部類だが、私の名曲アルバムには今も燦然と輝く。春爛漫、空一面晴れ渡り、カースピーカーから流れる「微笑み返し」の明るいメロディーを聞いていると、なんともうきうきした高揚感に包まれる。だが、しばらく聞いていると・・・涙がにじむ。「お引越しのお祝い返しも済まないうちに、またですね」。なんてことだ！

「春一番が掃除したてのサッシの窓にほこりの渦を踊らせてます」。春一番が吹くころ、まさに引越しの季節、別れの時はやってくる。「机、本箱、運び出された荷物のあとは畳の色がそこだけ若いわ」。「ダンスの陰で心細げに迷子になったハートのエースが出てきましたよ」。「何年たっても年下の人、いやだわシャツで顔拭いて、おかしくって涙が出そう」。「123 (ワン・ツー・スリー) あの三叉路で123 (ワン・ツー・スリー) 軽く手を振りわたしたちお別れなんですよ」。ああ、何とも切ない情景だ。

3月はうれしさと悲しさが入り混じった独特の感情に支配される不思議な月である。それに引き換え、4月は圧倒的に明るく、うれしさと希望に満ちた月である。3月が「別れの月」ならば、4月は「出会いの月」である。悲しい別れがあっても、また新しい出会いがある。だから私たちは、別れと出会いを繰り返しながら成長し、よりよく生きることを選択できる。別れと出会いは人生の大切なテーマではないか。

「3つ数えて123 (イチ・ニ・サン) 見つめあったら私たちお別れなんですわね」。「オモシロ・オカシイ」曲のイメージとは裏腹に、この曲の深層には「オモシロ・カナシイ」イメージが漂っている。「123 (アン・ドウ・トロワ) 三歩目からは123 (アン・ドウ・トロワ) それぞれの道、私たち歩いていくんですわね・・・歩いていくんですわね」。

さて、曲中の若い2人は、4月になってどんな新しい道を歩み始めるのだろうか。2人の門出にエールを送りたい。

微笑がえし キャンディーズ

春一番が掃除したてのサッシの窓に
ほこりの渦を踊らせてます
机 本箱 運び出された荷物のあとは
畳の色がそこだけ若いわ
お引越しのお祝い返しも
済まないうちに、またですね
罨にかかったうさぎみたい
いやだわ あなた すすだらけ
おかしくって涙が出そう
123 (ワン・ツー・スリー) あの三叉路で
123 (ワン・ツー・スリー) 軽く手を振り
私達 お別れなんですわね
ダンスの陰で心細げに迷子になった
ハートのエースが出てきましたよ
おかしなものね 忘れた頃に見つかるなんて
まるで青春の想い出そのもの
お引越しのお祝い返しも
今度は二人 別々ね
何年たっても 年下の人
いやだわ シャツで顔拭いて
おかしくって涙が出そう
123 (イチ・ニ・サン) 3つ数えて
123 (イチ・ニ・サン) 見つめあったら
私達 お別れなんですわね
お引越しのお祝い返しは
微笑にして届けます
やさしい悪魔と 住みなれた部屋
それでは鍵がサカサマよ
おかしくって涙が出そう
123 (アン・ドウ・トロワ) 三歩目からは
123 (アン・ドウ・トロワ) それぞれの道
私達 歩いて行くんですわね
歩いて行くんですわね